

大和人権文化センターだより

編集／三原市大和人権文化センター
住所／三原市大和町下徳良107番地1
電話／0847-33-1308

人権学習会を開催します。

今年度第4回目の人権学習会は

日時

2013年（平成25年）10月12日（土）
午後1時30分から午後3時まで

場所

大和人権文化センター 2階集会室

講師

元（株）IHI電力事業部 開発部長
木村 博昭 さん

演題

「工場をアマゾンへ」
～自分らしく生きたい～



木村先生は、石川島播磨重工業株式会社（現 IHI）のエンジニアとして活躍されてきました。日本の高度経済成長時代には、ブラジルの木材を使って紙を作る製紙プラントを現地アマゾン川流域に建設するという、スケールの大きな仕事もしてこられています。

平成12年に同社を定年退職されたあとは、禅に興味を持ち、現在に至るまで『禅の道』を歩んでおられます。

今回の学習会では、木村先生からこれらの経験について話を伺い、私たちのこれからの生き方の参考にできればと思います。

今年度の年間テーマは、『生き方再考～成長から成熟へ～』です。この年間テーマにふさわしい内容のお話になるものと思います。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

平成25年度第3回人権学習会の内容を紹介します。

8月4日（日）に、現在福島県内へお住まいで一時保養のため大草の徳正寺へ滞在していた家族の方々から話を聞きました。その内容について、一部を紹介します。

・東日本大震災の前後で変わったことは？

子どもを外で遊ばせないようにしている。

野菜などの食べ物に気を使っている。家で作っているものも食べない。県外から取り寄せたものを買って食べている人もいる。

野菜や米は県外産のものを買って食べている。水も市販されているものを買っている。

家で作った野菜は線量計で計測して、基準値以下であれば食べている。

ニュースなどでは、福島はもう安全だというアピールがされているが、私たちは毎日不安の中で暮らしている。1ベクレルでも野菜や果物に放射能が含まれていれば子どもには食べさせたくない。

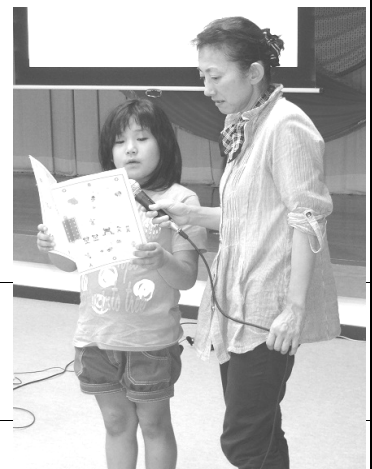
自分にたくさん情報を入れて、その中で何が正しいか、何を自分で選んでいくかということと考えながら、この場所は危ない、この場所は安全、ということをも自分で勉強していかないと福島では暮らしていけないとつくづく感じている。

・地震の後の状況は？

福島市でも1時間に2.4マイクロシーベルトという情報があったが、それが危ないのか危なくないのかも分からなかった。テレビでは大丈夫だと言わないので、もう大丈夫だと信じて、開いているお店を見つけて子どもたちを連れて並んでしまった。あとから、すごく危ない数字だったということに気づいて、並んだことを後悔している。

学校の保護者同士でも放射能の話はまったくしない。放射能の話をしている人のほうがおかしいという感じで、周囲から浮いて見られることがある。一時保養に誘っても行かない人もいる。保養に参加すれば、福島では言えないことも言うことができるし、共通する話題もある。福島では、みんな遠慮がちなところがある。

いろいろな気持ちを持っている方がいるということを共有できれば、もっと暮らしやすくなるのではないかなと思う。



・今回の一時保養について周囲の人に話しましたか？

言いづらいと感じている。以前はそれとなく言ったこともあるが、言うとなんとなく顔色が変わる人もいる。行かない人は絶対に行かないし、安心だと思っている人には「何しに行くんだろう」という顔をされてしまう。今回は誰にも言っていない。自分の家族しか知らない。来たくても来られない人もいる。

長期間休むので保育所の先生には伝えたが、「また行くんですか。よく行きますね。」みたいな感じのことを言われた。

「子どもを連れて少しだけでも福島を離れたい」という話をするのはためらわれるとよく聞く。いろいろな考えの人がいるので、震災直後より今のほうが話しづらくなっている。

テレビや新聞で報道されない話をたくさんお聞きしました。私たちにも何か支援できることがあると思います。できる範囲での支援を考えていきましょう。